

平成30年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果

| | | | |
|------------------------------|---|-----|---|
| 大 学 名 | 関西大学 | タイプ | B |
| 事 業 名 (交流推進プログラム部分) | グローバル・キャリアマインドを培う COIL Plus プログラム | | |
| 海 外 の 相 手 校 (交流推進プログラム部分) | 北アリゾナ大学、カリフォルニア大学バークレー校、ハワイ大学ヒロ校、ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジ、北イリノイ大学、イリノイ大学アーバナシャンペーン校、ニューヨーク州立ファッション工科大学、ニューヨーク州立大学アルバニー校、クレムソン大学、ジェームズマディソン大学、ミシガン州立大学 | | |

〔評価コメント〕

本事業計画は、特にプラットフォーム構築プログラムに関して既に COIL 型教育の担い手として進行している関西大学と米国教育協議会（ACE）やニューヨーク州立大学の COIL センター（SUNY COIL Center）など米国の牽引的機関との連携を踏まえ、国内の多数の高等教育機関の参画を得ることを企図していることをはじめ、UMAP との連携によってアジア太平洋地域への展開や、将来的には COIL 型教育の進展を支援するための一般社団法人の設立を企図するなど、極めて意欲的な取組である。また、計画の内容は具体的であり、これまでの実績も踏まえ、その実現可能性は非常に高いものと評価する。

一方で、国内外の高等教育機関との高次のコーディネーションの要として事務局運営が十分できるのかという点に関して懸念がある。また、事業期間終了後の持続可能性についても、意欲的な事業計画であるがゆえに課題も大きくなることが予想されるが、我が国の COIL 型教育の拠点として、綿密な計画に基づく事業運営が求められる。

交流推進プログラムに関しては、既に実現されている COIL 型教育の更なる発展が見込まれ、交流実績に基づいて効果的な事業の実施が期待できる。加えて COIL Plus プログラムはトラック1から3まで階層的にデザインされており、学生、教員の双方にとって教学上のニーズを明確化しやすい環境が準備されている。また、本事業で育成する学生の能力を VALUE ルーブリックや BEVI の活用によって評価・分析するとしている点も評価できる。

COIL 型教育に必要なハード面の準備の進捗に比して、教育プログラムの具体的な内容と、本事業を通じて養成される学生の能力について、更に精緻な検討を重ね、ハード面とコンテンツ面のバランスの取れた事業展開に期待したい。

最後に、今回本事業に選定されたことを受け、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請するとともに、プラットフォーム構築を担う事務局として、COIL 型教育を活用した我が国と相手国の大学間交流の促進に向け、戦略的な国内外への情報発信等に真摯に取り組まれることを期待する。